

日慶の碑


 匠瑤探訪
145

江戸時代、飯高村（飯高地区）には檀林が存在したため寺がいくつもあり、中には檀林の創設と関わるものもあります。

公崎の法界寺もその一つで、1360年代に日演が開き、江戸時代の初めに日慶が中興開基したと言い伝えにあります。

境内にある梵字が刻まれた2基の板碑のうち1基には1324年の年号が見られます。これらは妙福寺周辺が日蓮宗となる以前、真言宗か天台宗の宗教施設の存在を伝えるものです。1340年

代になると、安久山（飯高地区）・円静寺を中心とした地域に日蓮宗が広がり、1579（天正7）年に飯高檀林が開設されました。

法界寺は境内に墓地があり、奥まったところに「南無妙法蓮華經」の題目が刻まれた高さ110cm、幅80cmほどの砂岩の平石があります。

碑の表面に細かな文字が彫られています。摩耗し読みにくくなっています。40年ほど前に調べた記録によると、1619（元和5）年仲秋に

この碑が建てられました。ここに庵を結んだ日慶は、1609（慶長14）年に「法華經一萬部読誦」の願いを立てました。『続 日蓮宗の人びと』によると、「法華經を相当早く読む人で一日に二部、一萬部といえは五千日：」とあります。日慶が1万部の読誦を終えたので、近隣の僧と信者でこの碑を建てたのが由来といえます。

法界寺の本堂左奥にかつて毘沙門堂がありまして、まつられた毘沙門天は、日慶が読誦をしているときに夢に現れ、その翌朝、村の加瀬新六という古老も同じ夢を見たと言われてきて、庵の北側を掘ると、木像が出て来たのでまつたとの言い伝えがあります。

これは1720年ごろ飯高檀林の化主（檀林長）の日潮がまとめた縁起書によるものです。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）



法界寺境内の石碑